

2025年6月号
No.5文責:歳田和子

【高等部生徒有志の善行 ♡】

高等部生徒の中に、毎週火曜日と木曜日にグラウンドを整備したりゴミ拾いをしたりして、みんなが気持ちよく使えるよう活動している生徒有志がいます。

スポーツフェスティバルの前から児童生徒が走るトラックをきれいにしようと、一人一本レイキをもって砂地をならし、草をとるなど安全に走るため整備してくれました。

また、ある時はビニール袋を片手にゴミを拾うなど、学校のために頑張ろうと力を合わせてくれています。ほんの10分ほどの時間ですが、積み重ねればものすごい量と労力だと思います。この輪が少しずつも広がることをねがっています。

率先して動くことができれば、卒業後もきっと世の中で活躍し、人のお役に立てる存在になると思います。本当にありがとう!!本校の生徒たちの活躍はすばらしいと感じています。



【熊本県特別支援学校校 PTA 連合会表彰】

5月10日(土)に行われた熊本県特別支援学校 PTA 連合会におきまして、前 PTA 会長の川崎様が表彰を受けられました。子育てとお仕事をしながら PTA 会長をお引



き受けいただき、本校と熊本県のためにご活躍いただきました。

皆様もご存じのとおり、気さくで誰とでも親しみをもって話をされるなど温かいお人柄です。「いつでも何かあれば相談をどうぞ」とおっしゃってくださいます。もうしばらく本校に在籍されますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

本当におめでとうございました。

【九州地区知的障害教育校長会 PTA 連合会 研究協議会に参加】

6月初旬に表記大会が大分県で開催され、参加してまいりました。

長崎県立鶴南特別支援学校の取組と大分県での取組発表がありました。

長崎県での取組は、「生徒の主体的なキャリア形成をめざした二つの取組」と題して発表されました。1つ目は、中学部段階から高等部と一貫してキャリア教育を進めるという内容でした。2つめは、探究活動と作業学習を掛け合わせたプロジェクトで、生徒



の主体的なキャリア形成をめざして、企業（飲食業）とかかわり、生徒の作業製品を発注しブランド化する取組でした。木工製品・窯業製品が主ですが発注されるからには、検品から納品まで話し合いを重ね、ニーズや期待に合わせて「ブランディング」という素敵な内容でした。取組が地元新聞にも掲載され、高等部生徒増加につながっているとのことでした。

本校でも、キャリア教育をすすめています。昨年度中学部2年生が百花園にて職場体験させていただいたことが、今年度いちご狩りへの招待へとつながっていったように、さらに地域との連携を深め現場実習、就労へとつながっていけばありがたいと感じています。

大分県では企業「大分キャノン」と社会福祉法人が協力して立ち上げられた会社「キャノンウィンド」に卒業後も楽しみながら働ける仕組みを作られ「就職がゴールではなく定着がゴール」と題して発表がありました。

その社会福祉法人は、元々お寺のご住職をされており昭和53年から、知的障がいのある方の小規模作業所を設立されたことから始まります。その後、「大分キャノン」と福祉会とで協力し合い障害福祉サービス事業所「ウィンド」を立ち上げ、就労移行支援事業を活用した企業内実習を開始されたとのことでした。「互いの強みを生かし合う」をキャッチフレーズに「どうやったら雇用がスムーズにいくか」ととことん協議され、各個人の特性や得意なこと・苦手なことを共有し連携していくことで合理的配慮も整理され、社員さんが生き生きと働けるよう支援を続けておられるという内容でした。

7人の社員さんも登壇され、仕事の内容ややりがい、趣味特技、挑戦していることなどを発表されました。礼儀正しく生きがいをもって働いておられることや、仕事に対して責任と自信を持っておられることに感銘を受けました。

また、障がいの特性に応じた仕事のマッチングを大切にされておられることは、共生社会の実現に向けた取組であると感じることができました。

この取組が、世の中にさらに広がってほしいと願っています。

